

桜蔭俳話会 四月句会 (第三五四回)

平成二十九年四月二十三日 (日)

会場・旭区民文化センター (サンハート)

4点①春深し折り目かすれし江戸古地図	才美
3点 真白なる老後計画春深し	明美
3点 駅長の声春筈の忘れ物	守
2点②聞き流す苦言のひとつ春埃	守
2点①口遊ぶドレミの唄や別れ霜	明美
2点①花時のパレードうしろより戦車	明美
2点 櫻薬ふる首塚の盃新た	ヤエ子
2点 仏の間置替えして春深し	眞壽
2点 争ひは何処にありや山桜	ヤエ子
2点 行く春や医療費自動精算機	かおる
2点 百人に百の視座あり春深し	守
2点 誰がために咲きし墓域の桜かな	守
2点 杉戸絵の翁の笑みや桃の花	ヤエ子
2点 清明や稚魚壺万尾子等放つ	かおる
2点 古民家の天水桶に浮くさくら	明美
1点①大家族ちゃぶ台ひとつ昭和の日	明美
1点①身の内の鎧の解けし春の月	守
1点 廃校にロックのリズム花湧けり	明美
1点 春風に転がる帽子旅はじめ	友子
1点 役知らずマージャン参加四月馬鹿	かおる
1点 さへづりや旗を合図に来る渡し	友子
1点 夜桜や島の料理に島の酒	明美
1点 木々毎に芽の色違ふドレミファン	ヤエ子
1点 古巣まだ空のどこかを掴みをり	才美
1点 生きて行く苦さ重ねる別れ霜	眞壽
1点 園児らの困む迷ひ子の子猫かな	守
1点 尻もちは襦袢のかたち汐干狩	守
1点 孤独死や跡片付に躑躅燃ゆ	眞壽
1点 万華鏡余白に「アッてふてふ」	才美
1点 通学路を何度も歩き入学す	友子
1点 鶯の声に我家の茶の旨し	幸
1点 直角に曲がる路地裏春の月	幸
1点 生活苦抜けず還暦春の闇	かおる
1点 骨折の夫の不覚や花菜雨	友子
1点 花菜風錆びし農具のうづくまる	才美
1点 訪ふ人も稀なる寺の八重桜	邦子

※ 形身着るに母の顔あり春深し	友子
慰霊碑の苔むすまや昭和の月	守
コンクリの継目に一輪菫濃し	ヤエ子
母好みし猫も踏ませぬすみれ草	幸
ひと気なき沼に靴跡花菖蒲	才美
空つぼの神馬の小屋よ春霞	友子
リハビリをさあ始めよう春一番	ヤエ子
満開のさくら闇夜の香りかな	友子
冴返る一句に交じる友ありて	才美
地に触れし駒止桜あな愛し	ヤエ子
川桜向こう岸まで届くなり	幸
三世代節分の声豊かなり	幸
子らの声過ぎて野道の残花かな	邦子
愛猫の眠る一山百千鳥	幸
ぼつぼつとたんぼぼ咲けり庭の隅	邦子
婆二人生きて来年花見せむ	眞壽
伏せ字ならやがて解けます花の闇	才美
花びらの奥に小鳥のかほ覗く	明美
花疲れ見知らぬ街のウインドー	才美
土筆手にわらべの如の媪かな	ヤエ子
その話聞かず語らず春深し	幸
一升餅を背ナに泣く子や春日和	友子
寝違ふもマイク放さず花見酒	かおる
あの方に捧げて憎し藍微塵	眞壽
山葵田の礫を沈めし水の影	守
右手誰左手に誰春の雲	才美
咲きあふる花の動いて嘴見ゆ	ヤエ子
よいよいのグランドゴルフ花吹雪	かおる
山頂の右も左も春深し	邦子
春深し鮎屋ののれん動かざる	かおる
春泥を飛ばしトラック突つ走る	邦子
寅さんの気配の寺や草団子	友子
白菖蒲一子相伝てふ器	才美
揚雲雀風を潜りて草へ消ゆ	才美
一族の家長上座に昭和の日	明美
入学式の立札の前撮影会	友子
森の中のゆるりの散歩春深し	ヤエ子
春深し盲導犬の立ち続け	守

(不在投句 古野明美、松浦かおる)

【事務局からお知らせ】

○第一二五回通信句会作品募集

春の季語を用いた三句。締切りは五月十日（水）。
同封の葉書でお送り下さい。

○五月句会

五月二十一日（日）、港の見える丘公園付近で吟
行。詳細は同封別紙の案内をご覧ください。

○六月句会

六月二十五日（日）午後一時から、旭区民文化
センター（サンハート）

○七月句会

七月二十三日（日）、午後一時から、旭区民文化
センター（サンハート）